



三春中学校だより

第 49 号

発行日 令和 2 年 1 月 20 日

発行所 三春町立三春中学校

電 話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【実力テストで成果を試しました！～繰り返しと積み重ねで満足のいく結果を勝ち取ろう。～】

夜空に輝く丸い月、桜の枝で朝日に輝くキラキラしたしずく、バスセンターの屋根の上に浮かんだ白い月、自然はその歩みをしっかりとたどり季節は巡ってまいります。

1月10日（金）は、全学年において実力テストを実施しました。真剣に問題用紙に取り組む姿は頼もしい限りです。授業で、ランチルームで、家庭で、塾で、一生懸命努力を重ねてきたその成果を発揮すべく、筆記用具を滑らせていました。

“努力は必ず報われる。”ことを信じ、テスト結果に対しては、点数だけではなく、これまでの取り組みの姿勢等も含め、自身の学習への取組の成果と課題を振り返る大切な機会としてほしいと思います。

今週末の23日（木）・24日（金）には3年生の期末テストがあり、2月17日（月）・18日（火）には1・2年生の期末テストが控えています。ご家庭との連携を図りつつ、学習の面でも有終の美を飾れるよう計画的にテスト勉強にも取り組むよう指導してまいります。



【今日もありがとう！ ～15日の雪は湿って、重く、靴を濡らす雪でした。～】

前日の天気予報では15日（水）の日中は雪が降り続くという予報でした。通路だけでも雪かきをしないとと思い、いつもより5分だけ早く出勤しました。校舎内に入るとグラコンを着た生徒たちが昇降口を急いで通過、再び戻ってきて昇降口から外に出ると雪かきスコップを手に雪かきをはじめてくれました。バットスイングと同様、切れのいい、キビキビした雪かきぶりでした。

15日（水）の朝の雪は湿っていて重い雪でしたので、地面はビショビショになっていましたが、切れのいい雪かきのおかげで、登校してきた子どもたちは安心して校舎に入ることができました。顧問の先生に後で聞いてみると、そういう話はしましたが強制的にやらせたわけではありません。自分たちで考えてやったことだと思いますという返答でした。

すばらしい子どもたちが育っているなという実感を強くもちました。

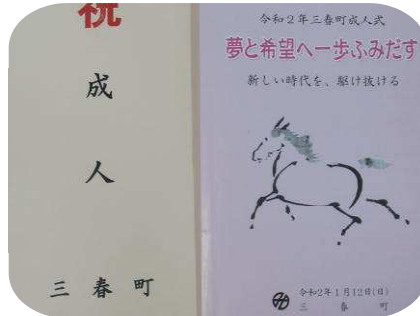


【おめでとうございます。新成人のみなさん！】

1月12日（日）は、令和2年三春町成人式の日でした。シャキッとしたスーツ、色とりどりの和服などに袖を通し、成人式会場のまほらに集まった新成人のみなさん。昨年は1階フロアの後ろの方まで新成人のみなさんがいたような気がしましたが、今年は1階フロアの前半分と2階席が新成人のみなさんの指定席となっていました。

添田教育長様の『開式のことば』で始まった三春町成人式は、田村高校合唱部と共に『国歌・町民の歌斉唱』の後、進行の方の呼名、そして、坂本町長様より成人代表の新成人女性への『成人証書授与』『町長式辞』『来賓祝辞』『成人者答辞』と進みました。名簿を拝見すると、いわきから三春町に戻り岩江中学校長として赴任した際の子どもの懐かしい名前がそこにはありました。岩江中学校で生活を共にした中学生の面々が立派に成長し、まほらの2階に陣取っていました。一人ひとりの新成人としての名前に岩江中学校での懐かしい思い出、共にした苦労などが思い出されました。

175名（要項では171名とありましたが）の新成人のみなさんをはじめ、全国各地で新成人を迎えたみなさんに輝かしい未来のあらんことを心より願います。



【ご多用の中、学校評価アンケートありがとうございました！】

～結果をうけ、できるところから着実に取り組んでまいります。～

先日、お寄せいただいた学校評価アンケート、ありがとうございました。お寄せいただいたアンケートから、保護者のみなさんの子どもたちや学校に対する思いが痛いほど伝わってまいりました。特に、自由記述の欄に関しては、あらためて別紙面に打ち直して、今後の学校経営の大きな拠り所とすべく作業を進めているところです。ただ、限られた時間と場との勝負という学校教育上の制限もありますので、できるところから迅速に取り組んだり改善したりしてまいりたいと存じます。今後ともたくさんさんの思いを学校までお寄せいただければ幸いです。

そして、そのまず第一弾として、『学校だより』に対するご意見を2名の方からいただきましたので、そのご意見を参考に今後『学校だより』に関しては以下のとおり進めてまいりたいと存じますので、ご理解のほどどうぞよろしくお願いいたします。

ご意見①「学校だよりが活字だらけで読みづらい。細かい活字だらけで伝わらない。」

②「学校だよりの文章が長すぎて読みにくい。詳しくわかりやすく教えていただきたい。」

反省①読もうとしていただいているにもかかわらず読む意欲をそいでしまった。

②詳しくわかりやすく伝えようと文章が長くなってしまった。

③学力調査生徒質問紙「家に自分や家の人が読む本がほとんどない」に1年生23.2%（県16.8%）、2年生28.4%（県16.5%）が「はい」と答えたのを意識しすぎた。

対応①長い文章にふれる機会を担保するために写真を必ずつけつつ現在の学校だよりを続ける。

②ダイジェスト版を別に作成し、ホームページ『日々の足跡』にアップする。

③学校だよりの意義・役割について生徒・家庭・教職員と共通理解する場を設ける。

学校とご家庭の連携といいながら、せっかく学校だよりを読もうとしていただきながら、その意欲を奪ってしまったことに申し訳ない思いです。

子どもたちも時折自分関連の記事などを見てくれているので、これからも子どもたちのがんばりや校長としてのメッセージをできるだけ多くお伝えしてまいりたいと存じますので、写真や見出しだけでも、ホームページでもけっこうですので、これまで以上につながった学校とご家庭であることを目標に、子どもたちの健全育成・学力向上に『共に』努めてまいりましょう。